

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792800120		
法人名	合同会社みらい企画		
事業所名	グループホームみらい 1		
所在地	福島県西白河郡矢吹町八幡町827		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年10月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りに広がる田園風景から爽やかな風が吹き抜ける平屋造りのホームです。今年4月から経営者が変わりましたが、大きな混乱を生じる事なく、これまで通りの生活を送る事ができています。  
様々な慰問や外出(外食)支援に力を入れて参りましたが、コロナ禍にあり全てが中止となりました。近隣を散歩し、近隣住民の方と会話をしたり、道端に咲く花に足を止め楽しみを見出しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 令和3年4月に経営母体が代わったが、利用者の生活に支障を来さないよう細やかなケア提供に努めている。笑顔の多い温かみある事業所で、経営母体の代表社員もほぼ毎日出勤し、職員の声を傾聴するとともに利用者の生活風景から日々学びを深めている。
- 開設後15年以上経過している建物だが、丁寧な清掃やメンテナンスのもと、良好な衛生状態が保たれ、利用者のアメニティ実現に寄与している。
- 入居時、家族に「リスク同意書」に基づき、生活場面での様々なリスク(転倒・転落・誤嚥・他)を丁寧に説明し、同意を得たうえで、入居契約を締結している。そして利用者が「その人らしく最期まで」生活できるように全職員協働で質の高いケア提供に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や事業所理念を掲げ、全職員が理解した上で、念頭に置きながら業務にあたり実践に繋げている。	事業所理念は法人理念を基軸とし、スタッフ会議で話し合いを重ね、令和3年3月に見直し、策定された。玄関・事務所・ホールに掲示するとともに毎朝のミーティングで全職員で復唱し、共通理解を促進している。理念に基づき、利用者へ寄り添うケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症予防の為、慰問等は中止となり地域への参加が難しい。	コロナ禍で地域との交流が制限されるなか、天気の良い日は近隣を散策し、地域の方々と挨拶を交わす機会を大切にしている。また、近隣の方から野菜等の差し入れもあり、友好な関係を築いている。ボランティア団体等から寄贈されたDVDを活用し、レクリエーション等に活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム玄関前を通る地域の方々と言葉を交わし、認知症を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症予防の為、地域への参加が難しい。ホームでの開催はせず、書面で意見や要望を伺い、サービス向上に努めている。	コロナ禍により文書開催(2ヶ月ごと)となっている。事前に推進委員から意見や質問を聴取するシステムを取っており、事業所からの一方通行にならないような配慮がなされている。行事・ヒヤリハット・事故等の報告に加え、各委員からの意見(助言)も詳細に記録に残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を取り、ホームでの困り事を相談したり、要望を受け入れるよう努めている。	町介護保険担当課と随時連絡を取り、事業所が抱える課題や介護事故等についての意見交換を行っている。複数の介護事業所が参集する包括ケア会議にも出席し、連携を深めている。また、町主催の研修会にも定期的に参加し、研鑽に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に一度設け、日頃の生活の中で身体拘束に当たらないよう委員を含めた全職員で注意すべきことを話し合っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごとに開催し、会議の場で「身体拘束チェックシート(全11項目)」を用いて、日々のケアの現状を確認している。スピーチロックを防ぐために、職員同士で指摘し合える関係づくりに努めている。玄関は防犯のために18時30分から翌朝7時30分まで施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	コロナの影響の為、社外では学ぶことが出来ていないが、ホームで虐待防止に関する動画を視聴し職員同士で話し合い、注意し合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解できるよう学ぶ機会を持ち、学んだことを活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際十分な説明を行い、疑問・不安な点が無いよう確認し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からは、面会時や電話で生活状況を伝え、意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。	利用者の意向は居室担当者がケアをとおしながら聴取し、ケアマネジャーと協働し、アセスメントに活かしている。家族には毎月の「みらいだより」や電話で利用者の生活状況を伝えるとともに、質問や意見なども聴取している。頂いた意見はスタッフ会議で全職員で共有化している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとり個別に面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。	代表社員が職員が記した「自己申告書」に基づき、全職員ひとりひとりと面談し、意見を丁寧に傾聴して。管理者も日々の業務を通し、随時の個別面談の機会を確保し、職員の意見や要望を聴取し、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では各職員の能力や職務態度、労働時間をなどを把握し、処遇に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症予防の為、法人より推奨された動画を用いて研修を行っている。毎回違ったスタッフが研修を受けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流できるよう包括センター主催の研修等に積極的に参加し、サービスの質向上を図る取り組みにつなげている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めの段階で、入居者様の情報を細かく収集したり、日々の関わりの中から発見したことなど実践に繋げて行っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活状況など細かく聞き取りどんなサービスを望んでいるかを把握し、ホームで快適な生活が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様がどんなサービスを望んでいるか。どんなサービスが良いか把握し、良い状況で検討し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況に見合う事、出来る事を行って頂き、また、スタッフと共に作品を作ったりして、取り組んで頂き出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの為、今年もホームの行事が家族様と一緒に出来ない状況です。テレビ電話などを利用し、元気なご様子をお伝え出来るよう支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、なかなか外に出歩くことができず、また面会も難しい状況ですが、継続できるよう支援を行っている。	コロナ禍で制限されるなか、玄関先や居室窓越しのほか、遠方の方とはLINE面会の機会を確保している。職員とともに住み慣れた自宅周辺へのドライブや自宅敷地の草刈りなども行っている。居室に電話の子機を持ち込めるように配慮して、静かな環境で家族等と会話できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲良く生活できるように、言い争いになった時など間に入り、一人だけ、責めたりしないように心がけている。また、皆さんの良いところを褒め、得意なことは声掛けし手伝って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	スーパー等で、ご家族様とお会いした際は、挨拶をして近況を伺いながら、相談・支援等出来ることがないか確認するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様それぞれの一日の流れを把握し、今何がしたいのか、なるべく本人の意志を尊重できるよう、話を聞いている。	日々のケア場面で利用者とのコミュニケーションを深め、思いや意向の把握に努めている。意向確認が難しい場合は、日頃の行動・仕草や生活歴などを家族から伺い、思いを推察し、利用者本位のケア提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時のサマリーに目を通し、ご自宅と変わらないような家庭的な生活が送れるようなケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢になると日々身体に変化が現われ、足腰が弱くなり、気力も無くなっていくため、毎日の変化を見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケース会議を行い、各担当者から入居者のモニタリング、身体状況についての変化、改善について話し合い、現状に合った介護計画を作成しています。	ケアマネジャーが家族や担当職員から情報を収集し、利用者・家族が望む介護計画の策定に努めている。毎月ケース検討会議を開催し、全利用者のケア内容を確認している。長期目標6ヶ月で策定し、3ヶ月の短期目標ごとに家族(利用者)にプランを説明・同意・配布している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の毎日の様子や気づき、ケア内容等、ケース記録、連絡用ノートに書き、出勤時には目を通し職員間で共有し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズや状況に合わせた対応を行っている。難しい場合は行政などに相談し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源の活用は、コロナ感染対策の為実施できていない。近場の散歩やホーム内での体操、家事の手伝い等を行い、心身の力を発揮できるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に対して、協力や理解を得た上で、状況に合わせた受診を行っている。	入居時、利用者・家族の意向を確認し、殆どの利用者は訪問診療を行っている医療機関を選んでいる。また、かかりつけ医による往診体制も取られており、適切な医療が受けられるよう支援している。専門医等の受診は家族対応としているが、状況により事業所が同行支援し症状や生活状況を医師に伝達できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来所している訪問看護師や職場内の看護師により、健康状態の管理、確認を行い必要に応じて適切な受診が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人や家族が安心できるよう、医療機関との情報交換等を密に行い、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、意向をご家族様に伺い、確認している。	入居時に、事業所の指針を説明し、利用者・家族の意向確認を行い同意を得ている。心身状況変化時は、その都度、家族の意思確認を行い同意を得ながら、意向に沿った支援を行っている。終末期の対応は、状況変化について、医師・家族・事業所が情報共有しながら看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、AEDの使い方を復習し実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した訓練を行っている。担当を変えながら、多くの職員が出来るよう工夫している。	年間防災計画を作成し、消防署立会のもと総合防災訓練(火災想定・昼夜間含む)の実施し、地震・風水害想定訓練・防災機器取り扱い訓練等を実施している。本年は、コロナ禍で地域住民の参加を得ていないが、地域住民の協力体制は構築されている。非常時用備蓄品は飲料水、食品、缶詰・コンロ等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声掛け等を配慮しながら言葉に注意し対応している。	接遇研修を実施し、利用者の尊厳とプライバシーを損なわない言葉掛けや対応を徹底している。個人情報等の書類は鍵付キャビネットで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを伺いながら意志を尊重するよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分自身のペースで過ごせるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用し整髪に努めている。好きにおしゃれを楽しんだり、コーディネートを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食前にテーブルを拭いたり、お膳を運んだり出来ることを手伝って頂いている。旬の物を取り入れ少しでも食事を楽しんで頂けるような支援を行っている。	コロナ禍で食材の買い出しなど難しい状況があるため、チルド食を導入した。地域住民や職員からいただいた野菜等を、チルド食とアレンジしながら、利用者が美味しくいただける食事となるよう取り組んでいる。利用者の持っている力を発揮できる手伝いもいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個別に把握し、水分摂取に気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己管理の出来ない利用者に対しては、食後に義歯を預かり洗浄している。歯磨きやうがいも声掛けしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、一人ひとり声掛けをして、トイレ誘導を行っている。	自立排泄ができる利用者が多く、見守りと状況に応じた声かけを行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。個々の排泄パターンは、排泄記録や動作・仕草等から推察し、羞恥心に配慮した誘導を行いできるだけトイレで自立排泄ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行いバランスの取れた食事や水分を摂取して頂いている。 また、テレビ体操やラジオ体操を行い、適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様に声掛けをしながら、要望に合わせて入浴を支援している。色々な入浴剤の中から選んで頂き楽しんで頂いている。	利用者の体調や意向に沿った入浴支援を行っている。希望の入浴剤を選んでいただき、気分良く入浴できるよう取り組んでいる。入浴を好まない利用者には、時間を変更したりシャワー浴や日をあらためて入浴していただくよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況を把握し、一人ひとりの希望に合わせて声掛け誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の詳細等はファイルに保管しており、直ぐに確認できるようにしている。又、薬の変更や症状の変化時は記録し申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、新聞折り、食事の後片付け等お手伝い頂いている。又、配信動画(YouTube等)で好みの歌を聴いたり、体操など好みに合わせ対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、戸外への外出は散歩やドライブに限られるが、希望に沿って戸外に出る支援に努めている。	コロナ禍の中で外出を自粛せざるを得ない状況であったが、利用者の自宅周辺や季節に応じた花見や紅葉見学など車を利用し、支援している。また、事業所周辺の散歩や敷地内で外気にふれる機会を持てるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、買い物へ出掛ける事が難しい。金銭管理が出来る方は自身で管理し、スタッフに買い物依頼し使用する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて家族への電話支援をしている。字を書く意欲に合わせて手紙を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気、温度湿度管理を行っている。希望に合わせて季節の花を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	居間・食堂には、畳敷き堀コタツ・ソファコーナーがあり、掃出し中庭には犬が飼われ、田園風景が眺望できるようになっている。壁面には行事写真や季節に応じた貼り絵などが飾られ、テーブルには季節のダリアの花を飾り、落ち着いて過ごせるよう配慮している。温度・湿度管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席を気の合った利用者同士を相席にしたり、ソファをテレビ前や窓際に置き、自由に過ごせる空間作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族様には、入居前に馴染みの物に囲まれた生活を推奨している。入居後もその人らしい生活の支援に努めている。	居室はベット・エアコン・クローゼット・トイレを設置している。使い慣れたソファ椅子やテレビ、大切な仏壇など馴染みのものを持ち込み、家族写真やお祝い色紙等を飾り、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、居室には手すりを設置。中庭にスロープを設け、安全に生活できる環境を心掛けている。その時に応じて模様替えを行い、自立した生活に繋げている。		